自作教具の活用事例

<p>【作品名】 ボールシュートゲーム</p>	<p>【学校名】 日立市立台原中学校</p>
<p>【活用できる領域・教科等】 認知の学習（目と手の協応）</p>	<p>【制作者名】 五十嵐 安衣</p>
<p>【制作の意図】</p> <p>目と手の動きを同時に処理することが難しい生徒でも自分に合った段階に合わせて、楽しみながら、目と手の協応機能を高めることができるようになる。</p> <p>複数人で行うことで、ルールやコミュニケーションの学びにもつながる。</p> <p>また、棚の上に登って遊んでしまうという危険を回避する目的もあり、棚上に設置し、トレーニングコーナーの一角とした。</p>	<p>【使用方法】</p> <p>1～2人で同時に行う、または、交代制で2人～6人で実施する。</p> <p>制限時間を設ける。制限時間内に、ボールが枠の中に入るように枠を狙って投げる。ボールが入った個数を競う。</p>
<p>【制作上の工夫】</p> <p>発達段階に応じてどの生徒も楽しく参加できるように、シュートする枠を○△□の形や、枠の大きさを大小様々な大きさにくり抜いた。</p> <p>ボールを投げる位置を、3段階用意し、自分にあつたレベルを選び取り組めるようにした。</p> <p>ボールは、投げたら落ちるようにして、制限時間等を設けた際に、ボールを投げ続けられるようにした。</p>	<p>【見取り図】</p>
<p>【写真】</p>	<p>【使用効果と応用発展】</p> <p>狙う的の大きさや位置、投げる立ち位置を限定することで、力加減の調整力を高めることができる。</p> <p>複数人で取り組むことで、ルールやコミュニケーション力を高めることもできる。</p>
<p>【材料・材質・部品等】</p> <p>段ボール ガムテープ ビニールテープ</p>	